マレーシア滞在記（2019.7.17～8.9）

マレーシアの首都であるクアラルンプール（以下ＫＬ）滞在は 2011 年 2 月のペナン・ＫＬ旅行を入れると 7 回目となる。滞在期間を通算すれば 14 週間程度になった。今回は 2015 年以来 2 回目の夏の滞在となった。ＭＭ２Ｈ取得から 5 年目となりＫＬ現地事情と海外滞在の感想などを纏めてみた。尚マレーシアリンギ（Ｒ）レート＝約２７円である。

１、 MM2H最新事情（ブーム再来か？）

MM2Hの申請承認手続きが昨年 9 月以降遅延していた。通常90日程度掛かるのが300日も掛かっていた。しかし今年 7 月に遅延していた 3700 件のうち 90%が解消したと当局が発表した。

因みにMM2Hとは主に高齢者の外国人向け 10 年間滞在ビザを発給する制度である。2HはSecondHomeの略称だ。従ってマレーシアでの労働は禁じられているが、事業経営やコンサルタントなどは認められている。さて発足から10数年経過して、これまでに 131 ケ国から約 44 千人が承認を受けている。承認を受けた国では、中国（14 千人）、日本（5 千人）が多く、ついでバングラデシュ、英国、韓国、シンガポール、台湾と続く（地元週刊誌より）。

宿泊ホテルで知りあった日本人夫妻は昨年春、大阪でのMM2Hのシンポジウムに参加したことで移住を決意し、昨年7月にビザ申請を代行業者に委託した。しかしその承諾通知を得たのはこの7月で日本の住民票を外してKLに来たそうだ。この夫妻は1週間のホテル滞在後モンテキアラの賃貸アパートに移った。因みに120平米のバストイレ付き家賃は日本円換算で約7万円とのことだ。5年前より円高効果で相当安くなっている。公共交通網が発達しショッピングモールが増加し、生活環境は相当改善していると思われる。

KLでは「ご褒美人生」という言葉が流行っている。長年働いたシニア世代に温かい南国で長期滞在するのは人生の「ご褒美だ」という意味だ。この言葉は日本人会でMM2Hを長年推進してきたグループリーダーが唱えたものだ。今回出会った夫妻もこの人生観に共鳴を受けて決意したとのことだ。

さて写真の風景はホテル室内（２９階）からの眺めである。遠方に見えるのは年末完成予定

の金融センタービルだ。街がドンドン発展していることを実感する。

初めてＫＬ訪問の方には、まずマレーシア・ツーリズムセンター（写真参照）がお勧めだ。そこにはマレーシア全土の観光名所の説明や土産店舗がある。

ＫＬのみの名所案内なら市内中心部にある City Gallery がお勧めだ。ＫＬ都市全体の巨大模型は一見の価値がある。

２、 外食（中華、マレーシア、インド、欧米、和食など）

(ア) マレーシアはイスラム教が国教で65%を占めるマレー人は殆どイスラム教徒だ。従ってマレー料理はイスラム料理がベースだ。アラブ専門店も沢山ある。味としてはスパイシーで独特な味付けである。またドリアンなど南国特有の果物は安くて上手い。なおイスラム国だが外国人はワインやビールで食事が出来る。

(イ) 中華料理は日本人が最も利用する料理だろう。コスパが良く美味な店も多い。種別では広東、四川、香港系が多い。飲茶で有名な台湾の「鼎泰豊」はKLでも評判だ。

(ウ) 和食では寿司、焼き鳥、すき焼き、てんぷら、蕎麦など殆ど全ての料理がある。但し寿司材料は築地から輸入しているそうだ。新鮮な魚貝類の管理が国内では不十分とのこと。この4月に「鈴木飯店」という日本人経営の中華料理店がオープンした。ビジネスマンの接待用高級店舗として評判だ。

３、 異文化交流（米国人夫妻との出会いなど）

(ア) アメリカ

今回米国人夫妻と仲良くなった。毎朝食堂で会ううちに家内同志が親しくなった。齢60代で現在は宣教師として世界を行脚している。大変友好的で教養もあり、宗教や日本文化についていろいろ話した。子供がネパールに住んでいるとのことで次の滞在先はカトマンズとのことだった。

(イ) アラブ

眼以外を黒装束でまとったアラブ女性を沢山見かける。滞在先のパークロイヤルスイーツにはアラブ人家族が結構泊まっている。彼らの食事はパンが基本だ。またアルジャジーラ放送局はKLに唯一の海外支局がある。独自のTVチャネルを持ち毎日アラブから観たニュースを流している。

(ウ) 中国・韓国

中国人と韓国人の現役ビジネスマンは多い。華僑の人口比率は25%だ。しかしリタイヤしたMM2H取得者として交流は殆ど無く、街中やレストランで見かける程度だ。

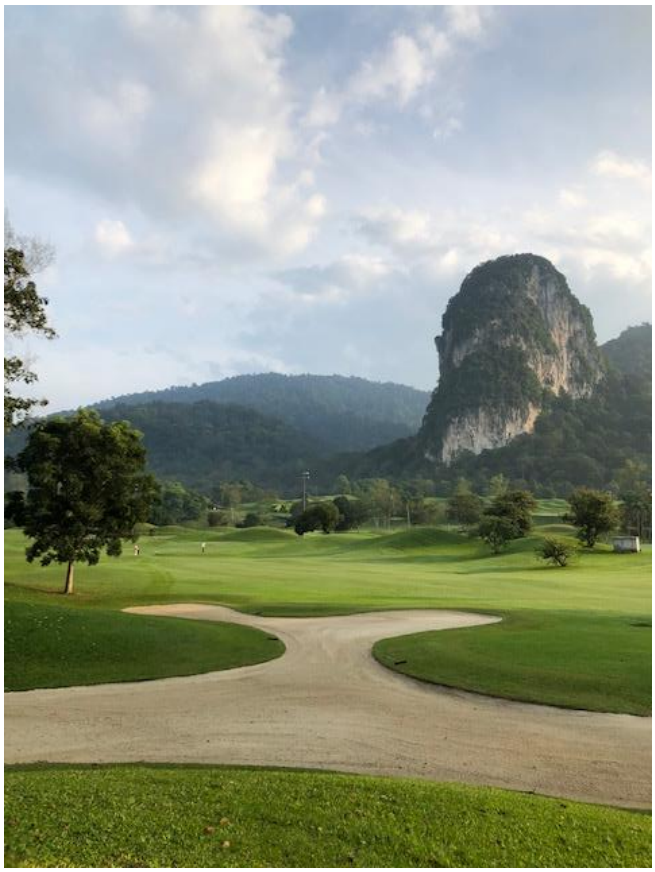
(エ) タイ・インドネシア・ミャンマー

ゴルフ場のキャディ、マッサージ店やレストラン従業員に多く見かけた。

4、ゴルフ

(ア) テンプラーパーク・コース

巨岩で有名な林間コースだ。尾崎将司プロが監修しており日本人に人気だ。何度かプレーしたが日本のコースよりフェアウエイの芝が荒く雑草もあるので飛距離が伸びない。夕方と夜にスコールが多いので午前中は芝に水を含んでおりラフに入ると出すのが難しい。 総じて日本の平均的なコースより難度は高く、まだ100を切れない。（写真参照）



(イ) サウジャナ・コース

プロ選手権試合にも利用されるコースでKL在住日本人には馴染みのコースだ。雄大な敷地でコース周辺に戸建住宅やアパートが併設されている。ゴルフ好きな滞在者に人気がある。

(ウ) TPC・KL

KL中心部に位置する名門コースだ。倶楽部ハウスやコースは豪華でPGA選手権も度々開催されている。

５、 ホテル

(ア) 朝食

定宿の Park Royal Serviced Suits の朝食は中華、欧米、インド、マレー料理などのビュッフェだ。毎日数品料理は変わるが、殆ど同じパターン料理なので3週間滞在すると少し飽きてくる。キッコーマン醤油と永谷園のフリカケを持参して時々料理に変化をつけた。

(イ) トイレ

KLのトイレには水のホースが併設されている。ウォシュレットを手動で行うものだ。ウォシュレットが常備されている海外ホテルは稀なので便利だった。

(ウ) TV・WiFiネット

ホテルで過ごす時間は長い。娯楽と天気予報やニュースなどTVは不可欠だ。TVチャネルは約40で、日本のチャネルはNHKだけだ。その他外国ではBBC，CNN，Fox，フランス、スペイン、イタリア、アルジャジーラが主なところだ。しかし昨今ホテルにWiFiが常備されており、グーグルとユーチューブでニュースと娯楽映画やスポーツが鑑賞出来る。TVよりもPCやIPADを見る時間が多くなった。

６、 教養と娯楽

(ア) 映画鑑賞

映画館は日本の映画館とあまり変わりない。パビリオンにあるシネマ施設ではスクリーンは10程度で世界中の最新映画が上映されていた。たまたま邦画の「キングダム」が上映中だったので鑑賞した。値段は19R（約500円）だ。ディズニー製作の「ライオンキング」は一日10回放映されていたが1週間で終了した。ハリウッド映画以外のインド、中国、日本、韓国映画も週変わりで上映されていた。因みに邦画の場合、字幕は3文字（マレー、英語、中国）出てくる。ただ映画館の冷房は非常に強く、日本人には防寒服が不可欠だ。

(イ) 語学学習

多民族多言語国家であり、マレー語、英語、中国語、ヒンズー語の語学学習には向いている。その他日本語、韓国語、フランス語、イタリア語を学習する機会もあるようだ。

(ウ) 読書

プールサイドやエアコンの効いた部屋で読書するのは至福のひと時だ。

毎回10冊程の本を持参するが2冊程しか完読出来ない。しかし「はしがき」と「あとがき」だけは全て読むことにしている。

7、 イポー日帰り旅行

KLから北200kmに位置する「イポー」は、100年以上前に錫鉱山の産地として繁栄した。現在は閉山となり寂れたが、人口50万の都市として主に観光と工業で栄えている。

(ア) 旧市街と新市街

イポー駅（前項の写真参照）は繁栄した時代の歴史遺産だ。その駅前通り周辺は旧市街であり、英国有名銀行支店（現在は地元銀行の支店に改組済み）、裁判所、市民ホール、教会、市民倶楽部、クリケット場などがある。建造物の壁に人物像が幾つか描かれており、かつて繁栄した面影は残されている。新市街は旧市街から川を隔てて徒歩15分程度だ。イオンモールなど大型商業施設もある。

(イ) 洞窟寺院

イポーの観光名所は洞窟寺院（写真参照）である。有名な寺院を3つ廻ったが、いずれも巨大鍾乳洞を改造した巨大仏教施設だった。①ペラ・トンは中国僧が1926年建立したそうだ。奥にある階段を登ること20分で山頂に着く。そこから市街を一望できる。中々絶景だった。②ケロッ・トンは極楽洞と呼ばれ鍾乳洞のトンネルを抜けると広い庭園に出る。地元では絶好の散歩コースだ。③サン・トンは最も古いが、3つの寺院の中では余り印象が残らなかった。

(ウ) 鉄道列車

マレーシア超距離バス料金は非常に安い。かつてキャメロンハイランド（北東200km）行きのバス代は片道30Rだった。しかも座席30席のデラックスバスだった。今回は高速列車を利用したが片道料金32Rだ。しかし鉄道の往路時刻は90分遅れた。復路も20分遅れだ。定刻通りの運行はまだ絶望的だ。

8、 病気と旅行保険

(ア) デング熱

デング蚊に刺されと高熱が出る。治るまで数か月掛かる場合もあるそうだ。マレーシアではデング熱は昨年比3倍に増加している。今年は7月末までで75千人罹患している。2017年には3百人も死亡した。日系診療所には注意喚起のポスターがあった（写真参照）。

(イ) 汗疹

ゴルフ場で今回初めて罹った。まずホテルの応急処置の消毒で済ましたが治癒しないので、地元クリニックで治療を受けた。しかしまだ治りかけでゴルフしたところ症状が悪化した。それで改めて日系の診療所に行った。値段は高いが適切で安心できる治療を受けた。現地で罹患した時、医者とのコミュニケーションが大事だ。尚VISAゴールドカード会員だったので海外旅行保険が適用されるそうだ。

9、この2年の変化

1年半振りのKL滞在で気づいた変化を纏めてみた。

(ア) 公園の充実

KL市街には緑が多い。市の中心部にある植物園、野鳥園、昆虫園があり、市民の憩いの場でもある。平日は子供達の遠足エリアにもなっている（写真参照）

(イ) 都市交通網

首都交通網（地下鉄）が10路線に延伸していた。さらに路線拡大工事も続いている。平日夕方（5時～7時）の交通渋滞解消になるだろう。

(ウ) 魅力的な街作り（モンテキアラなど）

高層ビルも増え市街化が広がっている。マレーシアの人口は33百万弱だが人口増加は緩やかながら続いている。昨年誕生のマハティール政権の支持率は62%で政治は安定しており経済運営も優れているようだ。

(エ) 自由の素晴らしさ

中国滞在の知人夫妻がKLに来た。3泊4日の間殆どKL観光をご一緒したが、「KLは自由だ」と何度も口にしていた。中国では自由に発言するのが憚れる空気があるようだ。KLは文化宗教的制約があるものの、ニュース報道は世界中全てアクセス出来る。

(オ) Grabの普及

Grabのシェアは20%だそうだ。Grabとはスマホで現在地と目的地を確定して料金を払うシステムだ。ウーバーは昨年マレーシアから撤退した。今回空港からホテルまではタクシーを利用したが、それ以外の移動は全てGrabを利用した。まだ改善すべきところはあるがコスパが断然良いので更に普及するだろう。

（2019.8.25記す）